

第15回

全日本カッター競技大会



日 時 昭和46年5月16日 08.00～17.00(日)
(雨天決行)

場 所 兵庫県西宮市夙川沖～西宮港提防沖

主 催 全日本カッター連盟

後 援 日本放送協会

神戸教育委員会

神戸新聞社

デイリースポーツ新聞社

第15回 全日本カッター競技大会

主 催 全日本カッター連盟

当 番 校 神戸商船大学

後 援 日本放送協会

神戸市教育委員会

デイリースポーツ新聞社

神戸新聞社

(順不同)

日 時 昭和46年5月16日(日曜日)

午前8時から午後5時まで

(雨天決行)

会 場 兵庫県西宮市

夙川沖 ～ 西宮港提防沖

第15回 全日本カッター競技大会

を 迎 え て

神戸商船大学長 平 勇 登

新緑の薫風に映える5月の海に全国から集まった海事関係大学の学生諸君がカッター競技に精魂を盡して日頃研鑽の妙技を競われることはまことに心強くまた慶賀に堪えません。

ご覧の通り本学周辺の海面は埋立工事進捗のため十分な環境とは申せません。今回、当番校をお引受けするに当つて最も心労の多いところではありますが、準備についてはできる限りの努力をいたしました。その足りないところは諸君の若さと闘志で補つて頂き度いものと存じます。

選手諸君におかれては、どうか本大会のもつ意義をよく認識され、終始フェアプレイの精神に徹し正々堂々各人の力を十二分に発揮されて有終の美を飾られることを希望して止みません。

最後に本大会の育成に御協力を賜りました関係各位に対して深甚の謝意を表し、併せて今後一層の御支援をお願いしてご挨拶といたします。

昭和46年5月

大 会 役 員

会 長	神戸商船大学	学 長	平 勇 登
副 会 長	神戸商船大学	学生部長 ^{学生部長}	後 藤 清 市 向原 誠也
審 判 長	神戸商船大学	学生課長	杉 浦 昭 典 鈴木 三郎
	海 技 大 学 校	明 渡 範 次	
	海上保安大学校	島 田 兵 二	
	鹿 児 島 大 学	肥 後 伸 夫	
	神奈川歯科大学	佐 藤 金 治	
	水 産 大 学 校	橋 本 市 雄	
	東 京 商 船 大 学	吉 田 卓 也	
	東 京 水 産 大 学	宮 崎 芳 夫	
	長 崎 大 学	柴 田 恵 司	
	日 本 大 学	添 田 秀 男	
	防 衛 大 学 校	石 崎 勝 之 助	
	三 重 県 立 大 学	細 川 鉄 雄	
	神 戸 商 船 大 学	原 潔	杉浦昭典 奥村 宗行

大 会 委 員

明 利 建 一	大 島 正 行
中 島 茂 太	
山 下 滋 生	小 原 得 司
鬼 一 恭 士	竹 中 勝 治

ク ル 一 名 簿

海 技 大 学 校

(注) ○部長 ○マネージャー

顧問 明 渡 範 次

	氏 名	科・学年	体 重	身 長	出 身 校 (出身県)
艇指揮	◎松 原 好 弘	本N二	70	174	弓 削 商 船 (香 川)
艇 長	藤 田 達 男	甲二E	68	167	栗 島 (愛 媛)
1 番	石 飛 裕 美	甲二E	75	170	児 島 (島 根)
2 番	石 原 信 雄	甲二E	55	165	清 水 (鹿 児 島)
3 番	笠 木 俊 昭	甲二N	62	169	大 分 水 産 (大 分)
4 番	末 田 学	甲二N	62	162	山 川 水 産 (鹿 児 島)
5 番	弓 場 清 俊	甲二E	50	165	鹿 児 島 水 産 (鹿 児 島)
6 番	原 儀 博	甲二N	59	163	有 川 (長 崎)
7 番	水 越 寛 嗣	甲二N	70	173	(福 岡)
8 番	川 本 雅 一	甲二N	62	168	田 辺 (和 歌 山)
9 番	大 友 正 英	甲二N	61	165	館 山 (宮 城)
10 番	杵 田 正 広	本N二	66	162	高 浜 (鹿 児 島)
11 番	石 田 賢 雄	甲二E	56	161	隠 岐 水 産 (島 根)
12 番	湯 浅 寿 雄	甲二N	60	167	児 島 (島 根)
予 備	◎藤 田 勲 昭	本N一	67	168	児 島 (岡 山)
"	河 合 昭 一	本E一	67	163	弓 削 商 船 (広 島)
"	有 沢 紘 一	甲二N	70	172	三 谷 水 産 (静 岡)
"	蒲 地 研 一	甲二N	62	173	唐 津 (鹿 児 島)
"	鈴 木 泰 寿	甲二E	60	170	気 仙 沼 水 産 (宮 城)

海 上 保 安 大 学 校

顧問 島 田 兵 二

	氏 名	科・学年	身 長	体 重	出 身 校 (出身県)
主 将	平 塚 隆 雄	3 E	171	69	松 山 北 高 (愛 媛)
主 務	宮 路 公 一	4 N	164	60	加 治 木 高 (鹿 児 島)
艇指揮	平 塚 隆 雄	3 E	171	69	松 山 北 高 (愛 媛)
艇 長	康 原 健	2 N	169	62	八 尾 高 (大 阪)
1	宮 久 保 夫	3 W	169	62	県 尼 高 (兵 庫)
2	佐 瀬 一 正	3 N	171	64	下 関 西 高 (山 口)
3	石 間 聡 孝	2 N	167	59	藤 枝 東 高 (静 岡)
4	八 木 康 夫	3 W	164	63	立 川 高 校 (東 京)
5	相 馬 秀 世	3 N	164	65	青 森 東 高 (青 森)
6	江 尻 信 久	3 N	163	60	長 崎 北 高 (長 崎)
7	白 田 重 雄	3 E	175	72	向 陽 高 (愛 知)
8	川 嶋 豊	4 N	173	72	鞍 手 高 (福 岡)
9	浦 部 和 男	2 N	171	61.5	明 石 高 (兵 高)
10	西 口 政 文	3 N	172	70	竜 野 高 (兵 庫)
11	比 良 和 年	3 E	164	60	大 分 四 日 市 高 (大 分)
12	倉 田 勝 行	2 E	164	53	新 潟 工 業 高 (新 潟)
補	な				

ク ル 一 名 簿

鹿 児 島 大 学

(注) ◎部長 ○マネージャー

顧問 肥 後 伸 夫

	氏 名	科・学年	身 長	体 重	出 身 校 (出身県)
艇指揮	矢 野 道 明	製 3	170	62	門 司 高 校 (福岡)
艇 長	矢 諏 訪 光 史	漁 3	170	60	浜 松 西 (静岡)
1	鶴 野 孝 德	漁 2	172	62	水 俣 高 校 (熊本)
2	北 沢 弘 弘	漁 2	167	60	上 田 高 校 (長野)
3	山 下 裕 滋	経 3	168	58	新 居 浜 東 (愛媛)
4	奈 須 昭 一	経 2	175	65	宮 崎 南 (宮崎)
5	堀 春 隆	漁 2	170	64	玉 龍 (鹿児島)
6	三 島 潮	漁 3	167	59	浜 松 西 (静岡)
7	◎毛 利 公 朗	漁 2	179	66	児 島 (岡山)
8	木 村 春 樹	漁 2	174	65	稚 内 (北海道)
9	稻 葉 誠	漁 2	175	66	玉 龍 (鹿児島)
10	伊 瀬 知 光 郎	増 3	170	65	穎 娃 (鹿児島)
11	草 場 和 理 士	製 3	165	60	佐 世 保 北 (長崎)
12	鈴 木 源 士 一	増 3	165	63	国 府 (愛知)
予 備	藤 田 信 正	製 2	171	65	沼 津 東 (静岡)
	笹 島 正 德	漁 2	167	59	長 崎 東 (長崎)
	沢 津 川 隆	漁 2	169	60	川 内 (鹿児島)
主 務	坂 井 一 郎	製 2	163	61	小 倉 (福岡)

神 奈 川 歯 科 大 学

部 長 佐 藤 金 治

主 将 藤 田 晃 二

マネージャー 佐々木 世 児

艇指揮	◎ 藤 田 晃 二	5 年	24才	独協高校
艇 長	小 松 始	5 年	22才	北海道立札幌月寒高校
1	坂 本 彰 宏	3 年	21才	熊本県立第二高校
2	相 浦 洲 吉	4 年	23才	福岡県西南学院
3	平 田 賢 次	3 年	21才	福岡県豊津高校
4	中 原 純 一	2 年	21才	福岡県小倉高校
5	谷 口 二 郎	3 年	20才	北海道立砂川北高校
6	幸 治 生 悟	3 年	22才	千葉県立長生高校
7	武 植 村 貞 道	2 年	19才	大分県立大分舞鶴高校
8	◎ 佐々木 世 児	3 年	20才	東京都九段高校
9	北 藤 風 裕	3 年	20才	青森県立五所川原高校
10	藤 波 好 美	4 年	22才	北海道立砂川北高校
11	夏 目 光 猛	4 年	22才	熊本県立済々黉高校
12	大 沢 誠	5 年	24才	熊本県熊本商大附属高校
予 備		2 年	19才	明治学院高校
				福岡県立福岡高校

ク ル 一 名 簿

水 産 大 学 校							
顧問		橋 本 市 雄					
主 将		大 西 俊 一		G 3			
主 務		能 登 谷 克 人		K 3			
	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 校 (出身県)		
艇 長	清 水 克 実	S・3	165	68	高 島	高(滋 賀)	
艇指揮	三 野 憲 司	Z・3	172	59	向 丘	高(東 京)	
1	前 田 修 三	G・2	160	56	小 野 田	高(山 口)	
2	大 前 竹 宗	K・2	168	60	向 陽	高(愛 知)	
3	藤 川 正 宏	G・2	170	67	玉 名	高(態 本)	
4	◎大 西 俊 一	K・3	170	69	大 牟 田	高(福 岡)	
5	森 岡 勉 夫	G・3	169	66	福 崎	高(兵 庫)	
6	田 中 敏 夫	K・2	168	61	佐 世 保	高(長 崎)	
7	森 藤 麻 博	Z・2	172	68	芦 屋	高(兵 庫)	
8	原 陽 一	G・3	174	68	姫 路 東	高(兵 庫)	
9	藤 原 安 男	K・2	172	72	柳 井	高(山 口)	
10	原 相 原 安 男	K・2	170	69	北 野	高(東 京)	
11	藤 本 光 誠	S・3	163	62	鎌 倉	高(神 奈 川)	
12	岡 池 田 明 英	G・2	170	59	萩 賀 茂	高(山 口)	
補		G・2	170	65	賀 茂	高(広 島)	
		K・2	166	64	芝 浦 工 大 附 高	高(東 京)	
		K・2	166	56	小 樽 桜 陽 高	高(北 海 道)	

東 京 商 船 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 校 (出身県)		
艇指揮	◎三 浦 章	N・4	172	67	酒 田 東	高(山 形)	
艇 長	主務伊賀上 知 雄	N・4	161	58	大 泉	高(東 京)	
1	浜 口 俊 明	N・2	169	70	豊 浦	高(山 口)	
2	佐 藤 実	N・2	173	70	富 山	高(富 山)	
3	金 子 史 郎	N・2	167	61	萩	高(山 口)	
4	奥 野 隆	N・2	166	67	杵 築	高(大 分)	
5	中 田 健 二	E・4	168	66	石 神 井	高(東 京)	
6	室 崎 康 志	E・3	168	64	長 崎 西	高(長 崎)	
7	正 林 健 次 夫	N・3	166	66	若 松	高(福 岡)	
8	佐 竹 秀 夫	N・4	168	71	葦 山	高(静 岡)	
9	坂 沢 敬 一	E・3	165	69	浜 田	高(島 根)	
10	清 水 正 男	N・3	164	64	桐 明	高(東 京)	
11	青 木 久 幸	N・3	166	64	浜 松 西	高(静 岡)	
12	磯 谷 潔	E・4	164	64	豊 田	高(愛 知)	
補	光 延 秀 夫	E・2	167	64	戸 畑	高(福 岡)	
"	中 山 正 文	N・2	168	68	千 葉	高(千 葉)	
"	高 野 健 吉	E・2	173	73	米 沢 興 護 館 高	高(山 形)	

ク ル 一 名 簿

東京水産大学
顧問 宮崎芳夫

艇指揮	為	石	日出	漁	4	161	62	松	江	南(島根)
艇長	○西	村	昭史	増	4	170	68	三	国	丘(大坂)
1	柿	原	利治	漁	2	166	65	態	本	本(熊本)
2	田	中	深貴男	増	2	165	62	下	関	西(山口)
3	藤	沢	辰夫	漁	2	175	65	大	分	舞鶴(大分)
4	益	原	寛文	漁	2	175	70	修		道(広島)
5	田	村	公平	漁	2	179	72	西		脇(兵庫)
6	加	納	新一郎	製	2	175	72	佐	世保	北(長崎)
7	野	口	広三	製	4	168	68	前		橘(群馬)
8	○内	田	康洋	漁	4	172	68	八		鹿(兵庫)
9	杉	浦	立樹	製	4	165	68	時	習	館(愛知)
10	田	村	敬一郎	漁	4	174	65	塔		南(京都)
11	高	田	康太郎	増	3	168	60	横	須	賀(神奈川)
12	馬	場	範彦	製	3	172	68	桑	上中	部(福岡)
予備	井	上	輝	漁	2	168	70	濟	々	巖(熊本)
	中	島	芳雄	製	2	164	57	若		狭(大阪)
	安	家	彰	漁	2	160	62	生		野(宮城)
	相	馬	敏生	製	2	165	65	白		石(宮城)
	辻			漁	2	162	58	鎌		倉(神奈川)

長崎大学

顧問 柴田恵司

氏名	科・学年	身長	体重	出身校(出身県)
松本幸雄	漁3	170	68	八大頭高(鳥取)
松永幸実	漁3	173	73	大嶺高(山口)
高本幸博	漁3	165	60	吳宮原高(広島)
江相良義	漁3	165	57	因島高(広島)
1 大川内	製3	172	63	長崎南高(長崎)
2 中尾	製3	172	65	佐世保北高(長崎)
3 古屋	漁3	170	60	佐世保南高(長崎)
4 下村	漁3	176	67	宇土高(熊本)
5 原木	漁2	167	67	豊浦高(山口)
6 田村	漁2	173	66	日田高(大分)
7 松本	漁2	178	73	明石高(兵庫)
8 真田	漁3	170	68	八頭水高(鳥取)
9 戸崎	漁3	168	63	出小高(鹿児島)
10 大庭	漁3	170	69	小若高(福岡)
11 飯田	漁3	168	62	八幡南高(福岡)
12 加藤	漁3	168	62	八幡南高(福岡)
補欠	製2	176	72	八幡南高(愛媛)
	漁2	171	63	松山日高(三重)
	漁2	168	58	四日市高(福岡)
	漁2	176	64	田川高(福岡)

ク ル 一 名 簿

日 本 大 学			(注) ◎部長 (○)マネージャー			
	氏 名	科・学年	身 長	体 重	出 身 校	
艇 長	大 杉 悦 郎	遠 2	1 7 0	6 5	岡山県立林野高校	
艇指揮 ◎	保 田 綱 男	遠 4	1 8 0	6 8	北海道札幌第一高校	
1	土 田 哲 夫	機 2	1 7 4	7 3	新潟県立拍崎工業	
2	高 井 茂 雄	遠 4	1 6 7	6 0	北海道立遠軽高校	
3	平 栗 洋 一	機 2	1 7 5	6 0	東京都立江戸川高校	
4	蓮 実 敏 雄	増 2	1 7 5	6 7	日本大学鶴ヶ丘高校	
5	新 宅 一 平	漁 4	1 7 8	6 8	山口県立大津高校	
6	竹 中 敏 昭	遠 2	1 7 6	7 0	北海道立厚岸潮見高校	
7	石 井 茂	機 3	1 7 8	7 5	神奈川県立横浜立野高校	
8	小田栂 英 男	増 2	1 8 1	7 1	滋賀県立木原高校	
9	山 田 文 吉	機 3	1 7 2	7 0	新潟県立加茂高校	
10 副	北 瀬 英 男	増 4	1 6 4	5 9	日大二高	
11	大 滝 和 夫	遠 2	1 6 4	5 8	神奈川県立逗子高校	
12	高 橋 滝 夫	漁 4	1 7 2	6 4	栃木県立矢板高校	
補 欠	野 村 雄 行	遠 3	1 6 7	6 3	東京二松学舎高校	
	庄 子 勇	機 2	1 7 7	7 0	東京都立桜町高校	
	島 田 次 男	漁 2	1 6 7	6 0	大分県立安心院高校	

防 衛 大 学 校

	氏 名	科・学年	身 長	体 重	出 身 校 (出身県)
艇指揮 ◎	清 末 純 博	応化4	171	63	上 野 ヶ 丘 (大 分)
艇 長	磯 田 国 義	応物4	167	58	脇 町 高 (徳 島)
1	伊 藤 正 樹	電 3	167	62	札 幌 東 高 (北海道)
2	森 本 春 男	基Ⅱ3	165	64	富 岡 高 (徳 島)
3	高 橋 理 一	基Ⅰ4	172	63	横 須 賀 高 (神奈川)
4	篠 原 淑 美 雄	航工4	169	65	阿 波 高 (徳 島)
5	高 橋 英 雄	基Ⅰ3	170	67	八 代 高 (熊 本)
6	出 来 逸 男	基Ⅱ3	170	65	伊 集 院 高 (鹿児島)
7	西 田 利 雄	基Ⅱ4	175	70	諫 早 高 (長 崎)
8	香 田 洋 二	基Ⅱ4	170	70	脇 町 高 (徳 島)
9	安 田 真 一	航工4	170	70	磐 城 高 (福 島)
10	外 山 帥 一 生	応化3	171	69	熊 谷 高 (埼 玉)
11	矢 野 上 光 治	基Ⅱ3	169	64	横 須 賀 高 (神奈川)
12	坂 加 藤 保 三	応物4	166	58	諫 早 高 (長 崎)
補 欠	寺 本 賢 直	基Ⅰ3			福 山 高 (福 岡)
	米 田 直 人	基Ⅱ3			小 笠 原 高 (熊 本)
	山 口 日 出 雄	2			野 沢 北 高 (北海道)
	西 原 篤	2			野 沢 北 高 (長 野)
	○ 前 田 正 英	電 4			小 笠 原 高 (愛 媛)

ク ル 一 名 簿

三重県立大学水産学部

顧問 細川鉄雄

氏名	科・学年	身長	体重	出身校 (出身県)
艇指揮 長谷川 修平	増 3	163	55	名古屋西(愛知)
艇長 ○橋本 博幸	増 3	170	53	長崎南(長崎)
1 沼 茂	漁 2	167	60	(三重)
2 高橋 秀典	製 3	166	68	(三重)
3 藤田 努	漁 2	169	62	名古屋西(愛知)
4 三浦 茂	漁 2	160	57	松阪(三重)
5 ◎竹田 力	漁 3	172	62	伝習館(福岡)
6 森川 博美	漁 3	170	63	神戸(三重)
7 中納 徹	増 3	167	60	木本(三重)
8 大路 正人	漁 2	170	67	池田(大阪)
9 大赤 勝彦	漁 3	173	69	津(三重)
10 中西 豊彦	製 2	179	65	七尾(石川)
11 中田 猛史	増 2	165	57	(三重)
12 神和田 吉洋	漁 3	163	58	津(三重)
浦 奥西 介篤	漁 4	165	58	桃山学院(大阪)
角谷 雅夫	漁 4	174	60	松阪(三重)
藤井 夫治	漁 4	178	70	伊勢(三重)
森末 恵	製 4	170	60	尾道北(広島)

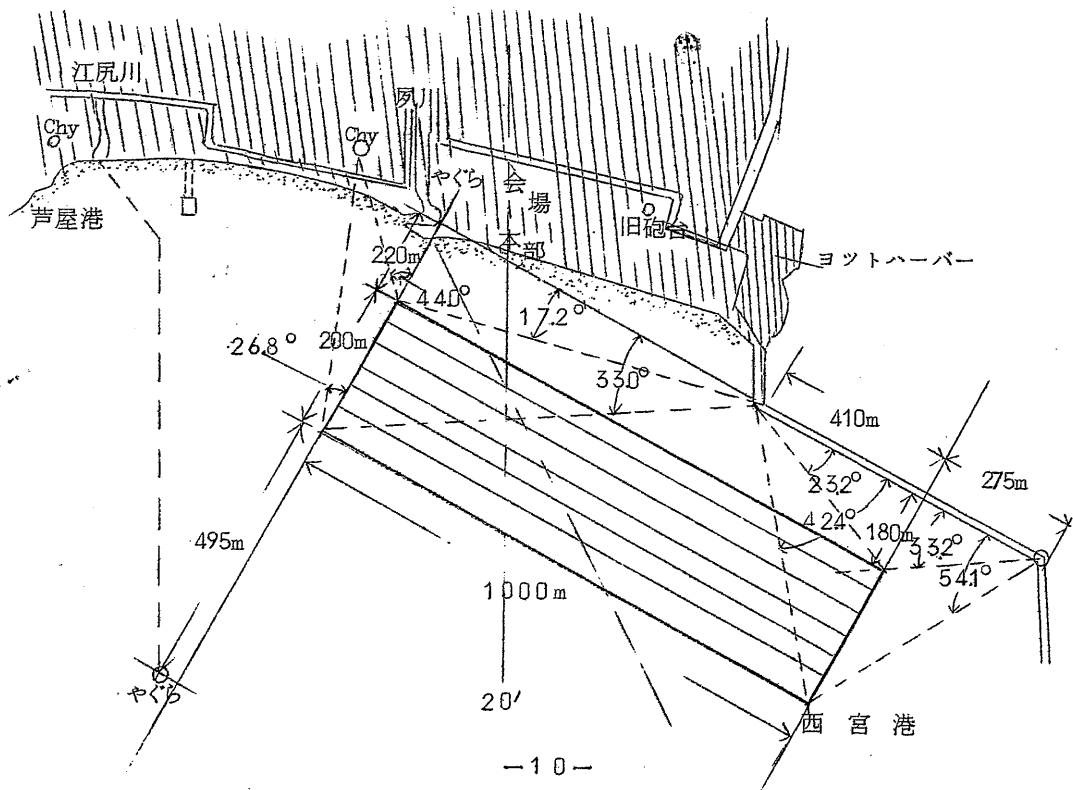
神戸商船大学

顧問 原 潔

氏名	科・学年	身長	体重	出身校 (出身県)
艇指揮 上原 耕二	N・4	173	63	国府台高校(千葉)
艇長 ○竹内 正夫	E・3	173	62	高志高校(福井)
1 佐々木 真己	N・2	170	64	岡崎高校(愛知)
2 淡野 仁	E・2	165	64	生野高校(大阪)
3 富士川 巧	N・4	173	70	清風南海高校(大阪)
4 上田 哲也	E・2	171	64	萩高校(山口)
5 田中 一正	N・4	175	76	桃山高校(京都)
6 ◎石田 広史	N・4	172	72	三国丘高校(大阪)
7 小鹿 邦博	N・3	173	70	加納高校(岐阜)
8 吉井 一寛	E・3	180	69	高田高校(新潟)
9 西岡 進	E・2	170	64	姫路西高校(兵庫)
10 平井 透	E・2	165	65	基町高校(広島)
11 高田 芳樹	E・3	170	60	済々黌高校(熊本)
12 吉原 善一郎	E・3	169	64	市岡高校(大阪)
予備 "				
" 鬼一 恭士	E・3	169	58	明石高校(兵庫)
" 山下 滋生	N・2	179	65	高槻高校(大阪)
" 小原 得司	N・2	176	65	清水谷高校(大阪)

成 績 一 覧

第1回	① 東京水産大学	② 東京商船大学	③ 神戸商船大学 (東京)
第2回	① 東京水産大学	② 水産大学校	③ 東京商船大学 (神戸)
第3回	① 水産大学校	② 海上保安大学校	③ 東京水産大学 (呉)
第4回	① 神戸商船大学	② 水産大学校	③ 海上保安大学校 (横須賀)
第5回	① 東京水産大学	② 水産大学校	③ 三重県立大学 (神戸)
第6回	① 東京水産大学	② 防衛大学校	③ 水産大学校 (館山)
第7回	① 東京水産大学	② 海上保安大学校	③ 神戸商船大学 (呉)
第8回	① 神戸商船大学	② 海上保安大学校	③ 東京商船大学 (館山)
第9回	① 神戸商船大学	② 防衛大学校	③ 水産大学校 (神戸)
第10回	① 海上保安大学校	② 防衛大学校	③ 三重県立大学 (横須賀)
第11回	① 防衛大学校	② 海上保安大学校	③ 三重県立大学 (呉)
第12回	① 防衛大学校	② 神戸商船大学	③ 海上保安大学校 (館山)
第13回	① 防衛大学校	② 東京商船大学	③ 海上保安大学校 (呉)
第14回	① 防衛大学校	② 長崎大学	③ 海上保安大学校 (館山)



レースの手引

本大会に使用される艇は長さ9米12人漕の**カッター**である。救命艇として使用されるものであるが一般のそれは艀艀同型であるのに対し、艀を切落して外観は普通の舟艇と変わらない。外板鍍張りの木製でオール12本(各々長さ約4米40握りの直径8.2厘、重さ10乃至15Kgである)マスト、セール等の機装品を備え帆走も可能である。漕手はクルーと呼ばれ 艇尾より船首に向つて艀右側の者が1番、同じく左側の者が2番、以下交互に3、4〜11、12番と続き、1、2番をBowmen、11、12番をStrokemen(整調)と称して撓漕のピッチを加減する任務を持つ。艇尾で舵を握るのが艇長で指揮号令を行つてゐるのが艇指揮 である。艇指揮は艇のすべての指揮を行い船長に相当する。

レース距離は折返し2000米の直線コースで行う。各艇の艇首が一直線に並んだ時、号砲の信号を以つてスタートし、スタートラインより1000米の所に設置された各コース毎の回頭旗を、艇をこれに接触させずに左回り(反時計回り)に回頭して帰つてくる。即ちスタートラインがそのままゴールラインで、ゴールは艇首がゴールラインに達した時とする。予選は各グループ4チームずつで分けて行う。各グループの優勝チーム及び2位となつたチームが敗者復活戦を行つて1位となつた計4チームによつて最後に優勝戦が行われるのである。レースはいずれも時間的ずれによる海況の変化の影響等のためにタイムレースでなく着順位である。ピッチ(1分間に漕ぐ回数)は大体30前後であるが各チームとも漕法の研究を重ねているので必ずしも一定ではなくそれぞれ特色のある漕法によるピッチを持っている。レース所要時間は10分余である。しかし、救命艇という性質上、いかなる荒海でもレースは行われ、そのような場合には30分にも及ぶ。カッターレースは10分余の間一瞬といえども息を抜くことを許されず、しかもクルー全員の呼吸が完全に一致しなければならない。レースの見所は、ピッチをいくらに定めるか、スタートダッシュ、回頭ラストスパートの巧拙、風浪、海潮流の対策、利用の巧拙等ためまぬ練習、シーマンシップを完全に身につけた者が初めて克服できる実技を兼ねた、最も豪快な海のスポーツである。

審判規則

- 1 使用艇、オール及びコースはレースの都度抽選により決定する。
- 2 スタート
 - (1) 各艇は指定の時刻、コース順に従い、スタートラインに整列する。
 - (2) 5分前をマイクにより通達スタートブイにつく。ブイにつき用意が完了したら艇長は陸上の審判員に手を挙げて合図する。
 - (3) スタート用意：号笛短声連続、手旗2原画、号笛長一声手旗頭上より一回転する。
 - (4) スタート：頭上の手旗を垂直に振下すと同時に号砲を打つ。
- ③ 審判長、審判員がスタートを不完全と認めたとときは直ちにレースを中止せしめ、スタートラインと呼び返す。
諸信号、審判艇コース横断。
- 4 スタートにおける号令前の飛び出し及び艇の事故によるスタートの遅速等は2回で失格である。
- 5 回頭は左回頭とする。回頭は指定の回頭旗を回頭するものとし、他の回頭旗を回頭した場合及び回頭旗に艇またはオールの一部でも接触した場合は失格である。
- 6 ゴール：艇首が規定のゴールラインに入つた順序をもつて順位とし順序は審判員が判定する。
- 7 同着の場合は追込艇の勝とする。
- 8 ゴールイン時のスタートブイタッチは失格としない。
- 9 各艇は自己のコースを航行しもしこれを誤つて他の艇に接触その他不正行為があつたと審判員の認めたときは失格とする。
- 10 レース中のコースにおける障害、自艇の故障等は他艇の不正な接触を除く他各艇自らこれを忍ぶべきものとする。しかし審判長の判断によりこの限りでないときもある。
- 11 レースに関する異議申立等はすみやかに艇指揮がこれを行い、審判長が裁決する。
- 12 オールは予備2本を積み自由に使用してよい。
- 13 補欠は2名以内自由に交替できる。
- 14 オールは流したままゴールインしてよい。

天候

風向

風速

波浪

時 刻	種 目	コース	校 名	艇	着 順	タ イ ム
08・20	開 会 式					
09・20	予選第1レース					
10・00	予選第2レース					
10・40	予選第3レース					
昼 食 ・ 休 憩						
13・00	敗者復活レース					
13・50	順位決定レース					
14・30	順位決定レース					
15・20	決 勝 レ ース					
16・00	閉 会 式					

ㇿㇿㇿ 編集 / 発行 神戸商船大学カッター部 / 東灘 本庄町 深江
ㇿㇿㇿ 印刷 イケダ印刷 / 東灘区西青木本町140 ☎(078) 43-0217